

戦後七十年記念誌作成事業を終えて

本年五月三十一日に、市民が主体となって平和事業を企画、運営していくことを目指した市民の会「長久手市平和事業推進委員会」が設置されました。本委員会は、市民と行政が両輪となって、互いの特性に応じた役割を担いながら平和事業に取り組み、戦争の悲惨さや平和の尊さを後世へと引き継いでいきたいと考えています。市では、平成二十六年九月に非核平和都市となって以来、これまで行政単独で原爆の被害の有様を写真パネルで伝える「原爆写真パネル展」や平和教育の一環として「被爆二世樹木の小中学校への植樹」のほか、「市内中学生を広島市へ派遣」するなどの平和事業が行われています。

昨年、市が市民に対して戦争体験談の寄稿を呼びかけたところ、何人かの方から戦争体験談が寄せられました。どの寄稿文も戦争の悲惨さや平和の尊さが心に響く内容でした。こうした生きた証言をできるだけ多く記録し、後世に伝えていくことは、戦争の事実が風化している現代では、非常に意義があることと思います。本委員会の最初の事業として、まず、これらの戦争体験寄稿文を中心とした記念誌を本年の終戦記念日まで発行する作業に着手しました。長久手市の戦争の事実を伝えること、平和の尊さを未来につないでいくこと、様々な世代の目に触れるものをついことを大切に、記念誌の構想、誌面構成等について議論を重ねました。

また、記念誌の編集作業と平行して、委員会の発案で八月十一日に戦争体験者による語り部事業を計画しました。長久手における戦争の被害や戦時中の人々の不安につつまれた日常のくらしはどんな様子だったのかなど、語り部の体験に基づいた生の声を聞くことで、戦争と平和について改めて考えるきっかけとし、今後市民のみなさんと継続して平和を希求していきたいと思えます。

最後に、記念誌発行に際し、御協力いただきました方々に対して、末筆ながら深く感謝いたします。

平成二十八年八月

長久手市平和事業推進委員会委員長 吉田真砂

戦後70年記念誌

「平和への願い」

～戦争のない明日を築くために語り継ごう～

発行日 2016年8月15日

【長久手市平和事業推進委員会】

吉田真砂(委員長)、松原永吉(副委員長)、
鈴木敏枝、生田範子、原田拓郎、永田宏、與語麦生、藤田恵美、
小林元(アドバイザー)、安井俊夫(アドバイザー)
(以上、順不同・敬称略)

【参考文献】

『香流川物語—長久手・猪子石の今昔—』 小林 元
『長久手町史』

【発行】

長久手市
愛知県長久手市岩作城の内60番地1
TEL:0561-63-1111(代表) FAX:0561-63-2100(代表)
<https://www.city.nagakute.lg.jp>

【制作協力】

印刷ディレクター／大島敏明
企画・制作ディレクター／丹羽達也
デザイン制作／株式会社オーディーエフ 大宮正紀
イラストレーション／スタジオストーク 森沢康代
写真撮影／空 有限会社